

東日本大震災で大きな被害があった気仙沼市で滅災、防災教育の在り方を学ぼうと、19都府県の小中高校の教員35人が16〜18日の日程で、気仙沼市階上小や階上中を訪れた。

防災教育実践例学ぼう

全国の教員気仙沼で研修

17日には階上中を訪問し、生徒から具体的な防災教育の事例などの説明を受けた。生徒が地区の約1500世帯を対象に震災時の行動を尋ねたアンケート結果や、昨年度作成した避難所の設営マニュアルの内容について熱心に聞き入っていた。

階上中の菅原定志校長は「防災教育もスクラップ・アンド・ビルドが必要。各校で新たな取り組みに挑戦してほしい」と訴えた。

教員らは「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」なども見学した。熊本地震で被災し、学校の体育館が避難所になった熊本県南阿蘇村南阿蘇中の古賀元博教諭(44)は「階上中の生徒たちは全員が防災教育の大切さを認識し、理論的に学んでいることに驚いた。大変参考になる」と話した。

研修は、日本ユネスコ協会連盟(東京)が主催。被災地の子どもを支援するアクサ生命保険からの寄付金を活用している。

階上中学生徒発表「理論的驚き」



階上中の生徒たちの取り組みを熱心に聞く教員ら